

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 3 区分

【発行日】令和 3 年 10 月 28 日 (2021.10.28)

【公表番号】特表 2020-534167 (P2020-534167A)

【公表日】令和 2 年 11 月 26 日 (2020.11.26)

【年通号数】公開・登録公報 2020-048

【出願番号】特願 2020-509000 (P2020-509000)

【国際特許分類】

B 2 5 J 15/12 (2006.01)

【F I】

B 2 5 J 15/12

【誤訳訂正書】

【提出日】令和 3 年 9 月 1 日 (2021.9.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 7】

上記第 1 の技術課題を解決するために、本発明では以下の技術的解決手段を提供する。
すなわち、本発明の可撓性把持ヘッドは、弾性材料で作製された把持部と接続部とを含み、前記把持部は、把持のための少なくとも 2 本の互いに協働する指先を含み、各指先間に隙間が形成されており、各々の指先の内部にはいずれも指孔が設置され、前記接続部は連通室を含み、該連通室は全ての指孔と連通し、前記接続部上には連通室と連通する連通口が設けられており、前記指先は隙間に近接する内壁及び隙間から離間した外壁を含み、前記内壁の厚さが外壁の厚さよりも小さいか、あるいは内壁の弾性率が外壁の弾性率よりも小さい、ことを特徴とする。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 2】

可撓性把持ヘッドは、弾性材料で作製された把持部と接続部とを含み、前記把持部は把持のための少なくとも 2 本の互いに協働する指先を含む。各指先間には隙間が形成され、各々の指先の内部にはいずれも指孔が設置される。前記接続部は連通室を含み、該連通室は全ての指孔と連通し、前記接続部上には連通室と連通する連通口が設置されている。前記指先は隙間に近接する内壁及び隙間から離間する外壁を含み、前記内壁の厚さは外壁の厚さよりも小さいか、あるいは内壁の弾性率は外壁の弾性率よりも小さい。このため、ガス供給時に、駆動媒体（ガス又は液体）は連通口から連通室内に入ってから指孔内に入る。把持ヘッドは、弾性材料で作製され、かつ内壁の厚さが外壁の厚さよりも小さいか、あるいは内壁の弾性率が外壁の弾性率よりも小さい。そのため、内壁の変形量が外壁の変形量よりも大きく、内壁が膨らんで各指先を開き、ガス排出時に、指孔及び連通室内の駆動媒体が連通口から排出され、同様に内壁の湾曲変形量が外壁の変形量よりも大きいため、指先が閉合する。このようにして上記可撓性把持ヘッドは微小な物体を把持することができ、物体の表面を損傷しない。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0023

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0023】

前記把持部 1 は、把持のための少なくとも 2 本の互いに協働する指先 11 を含む。指先 11 の数は 2 ～ 4 本で、かつ、各々の指先 11 の形状がいずれも同じであることが好ましい。各指先 11 間に隙間 12 が形成され、各々の指先 11 の内部にはいずれも指孔 13 が設置されている。前記接続部 2 は連通室 21 を含み、該連通室 21 が全ての指孔 13 と連通し、前記接続部 2 上には連通室 21 と連通する連通口 23 が設置される。前記指先 11 は隙間 12 に近接する内壁 14 及び隙間 12 から離間した外壁 15 を含み、前記内壁 14 の厚さは外壁 15 の厚さよりも薄いか、あるいは内壁 14 の弾性率が外壁 15 の弾性率よりも小さい。ここで、2 つの方案がある。一方は、内壁 14 の厚さが外壁 15 の厚さよりも薄いと、内壁 14 の変形量が外壁 15 の変形量より大きくなるため、内壁 14 が膨らんで指先 11 を打開させる（広げる）。もし内壁 14 と外壁 15 の厚さが一致する場合には、内壁 14 の弾性率を外壁 15 の弾性率より小さくするのみで、同様に内壁 14 の変形量を外壁 15 の変形量より大きくすることができる。